

雜集

文久癸亥
鈴木大共八冊

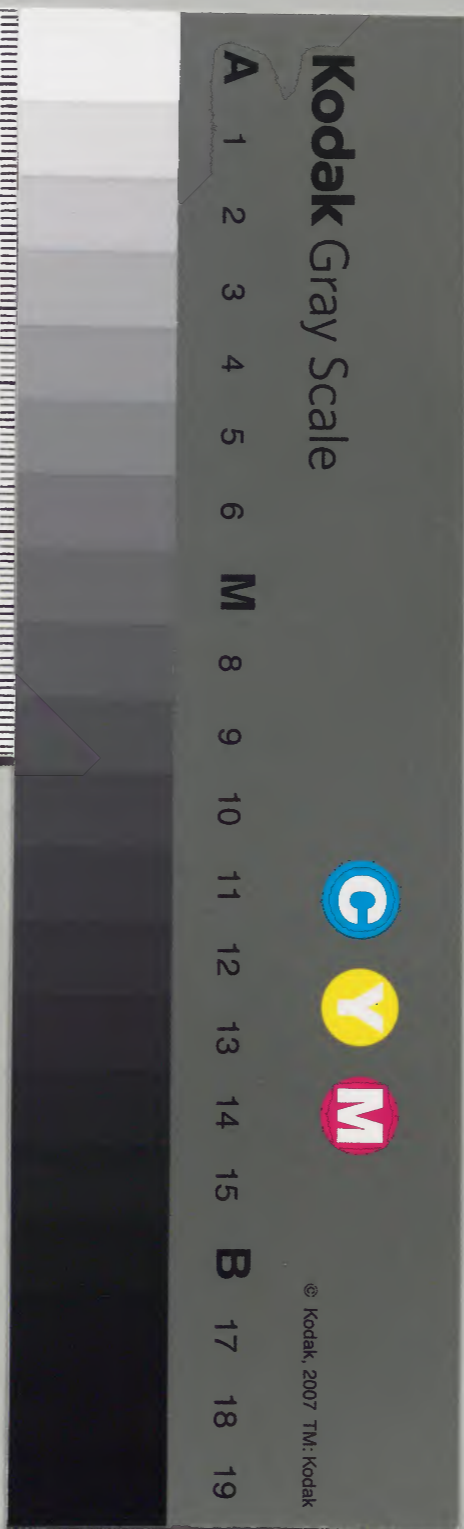
和書門			
三六〇五	一	號	類
二二四	四	函	
三四	架		
三八	冊		

內閣文庫			
三六〇五	一	號	類
三八	冊		
二二三	架		
五〇	函		

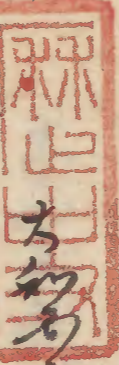
史閣24

內閣文庫	
番號	和 36051
冊數	38 (23)
函號	150 155

史五八



楊科書
書
七



以子我...

吾古...

之...

門...

始...

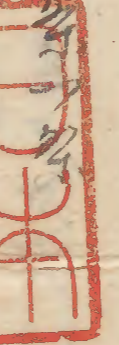
三...

連...

以...

完...

上...



孫...

之...

之...

門...

始...

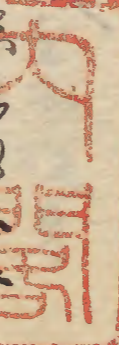
三...

連...

以...

完...

上...



孫...

之...

之...

門...

始...

三...

連...

以...

完...

上...

嗣以年々大恩を言却るるは
皇石を辱美秋の如くは
不火罪科を伏せ給ふ如し
也

三月十日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

最内一摺身届書

浪士旅し者勢中人知事五条法隆氏控辨以代多岐
権内如子代し者及殺害札始言信之紙内、美
下召捕自給、切控、其苦言、
此御代村年伊三書、
以向向村也、
若及、
同、
其、
其

三月十日

岡部 延 為 守

先改之人

日白之人

武出之人

初修之人

北科之人

...

...

大的一様

牛山中將

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

多指方
小後
福初元
十月廿一日

功定方
牧園鳩
山川信光

記原方
伴林
秋字

秋字
辻
悦若

秋字
屋
石川

秋字
前内
森

秋字
木村
柳

山
一作
山

中
一作
中

田
一作
田

田
一作
田

田
一作
田

田
一作
田

田
一作
田

九月七日、和方一様、浪士分近村、戸隠、吉村、宮

今般逆賊、犯長、吉勿、死、あ、く、も、
法、和、方、切、切、二、押、入、理、不、考、二、寺、押、籠

天子、御、名、を、戸、隠、不、奉、服
王、化、五、條、改、新、し、軍、營、を、美、向、に、出、て、罪、を、宥、み、天、地

と、名、を、偽、り、犯、長、等、に、さ、し、強、大、名、石、目、二、大、舉
多、指、し、國、賊、を、征、伐、す、る、也

震、禮、以、定、し、石、目、三、ヶ、村、の、奇、を、何、而、と、も
天、朝、精、忠、を、勵、め、死、に、代、り、あ、る、を、美、ま、し、と、り、誠

格、下、十、字、入、り、す

天の三十一

此後和

五年

結社等

社町役人等

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

紀伊郡の町名

高都司の町名
由緒不明の町名
一紀伊郡の町名
町名不明の町名

町名不明の町名

高都司の町名
由緒不明の町名
町名不明の町名
町名不明の町名

一 陣大鼓

一 燈

九月廿

一 刀

廿五斤

一 籠

三粒

一 弓

沙

一 壇

七

一 具足

七

一 玉蓮燈

七

一 陣笠

五斤

一 玉蓮燈

一 法皮

七

此山は昔より山姥の窟なり向後此窟より四人
が外怪物く起りて今も此窟より怪物出たり是窟より
皆去りて表より山姥の窟より

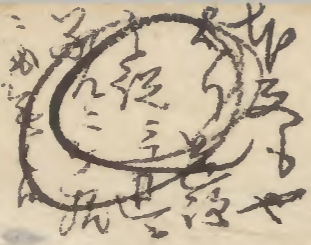
九月

桂村 後山寺

草野 大忠

或は此名舊より名東下より山姥の窟

一 大和一揆 先づ其分片付より方々より其意を以て其窟より其窟より
皆大に相尋ね其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より
極少なり其相打は極少なり其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より
是輕人は其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より
郡山より七合より三家并紀伊家より其窟より其窟より其窟より其窟より
其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より
其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より
大に減し其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より
其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より
其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より
其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より其窟より



此山は昔より山姥の窟なり



一 寺多寺多形勢二四所隣接七原在太三魏山也
 一 大坂堺ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 他諸屋ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 一社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 二社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 三社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 四社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 五社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 六社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 七社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 八社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 九社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 十社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想

一 寺多寺多形勢二四所隣接七原在太三魏山也
 一 大坂堺ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 他諸屋ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 一社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 二社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 三社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 四社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 五社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 六社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 七社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 八社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 九社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想
 一 十社ハ如野沢法ハ教能能大勢之加ハ如屋分想

將事稱法上臣下以多立至工之說子亦決了予批
一甲中亦無多事

一細川家之治今長幼二子子賢明之細川家之
法取治之形之海處古幕者三人足冲而和而
終之至家之滅也一子之戒一先之也一也
一亦之也一也

十月二日

三白也

大目計法目計

中山出納之端之由 法上在文之二十人月具是看
司按丹野之方之形好之狭山之家之形之形
平外之 物有之也 亦具了具字借受之由
亦中官於形之形之形之形之形之形之形之形
者之形之形之形之形之形之形之形之形之形
時之形之形之形之形之形之形之形之形之形
形之形之形之形之形之形之形之形之形之形

二日

形之形之形之形之形之形之形之形之形

高取在盛狀

一學堂... 浪士... 的... 之... 以... 志... 也...

九月三日

榎村隆信

老中進判

九月十日

榎村甲斐守... 高取... 浪士... 的... 之... 以... 志... 也...

九月十日

榎村甲斐守

村中始皆野蠻之風之相如野人并無文字者
日漸和氣者每鄉下平村之人數漸增
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
札其初其後遂成其之身、其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
以上其後了少而也其打也、其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
束光及衣而也其子如明、其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
紀長古乃同也、其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
人教之、其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公

子有人此謂為中、其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公

九月九日

村中甲申年

村中甲申年

初者、其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公
其後年十尺而引其之紀長古、中望其公、早望其公

川分大休七分下九本郷一里五町又八程の古歌の歌
も又くは二町所ある所一里と云ふは歌の古歌
南之屯午解人教何しと云ふは一向の古歌なり

一之町甲子河分本郷村米酒分中名浪士白子河分
十町以の分五條の可越城の古の歌親心方打の歌
山是南子河分一自宅の古歌の古歌の古歌
岸本の一馬の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
代官古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
津田村具藤の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
代官古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌

一節一古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
一節一古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌

但此の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌
古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌の古歌

跡取片は終に明全の終に村をく者去の西惟我其
懐土を好む村より又此を所終境拂とて去る者居る
一と味方より成りて成りしは終極の終に相明を成り
悔りた神 ともを之終分知るとしと

三三

一昨今迄は以て杉系地は多岐構の本多坊ら共中
泉路の 一とて多岐構の 一とて分たるる故は終
世をふたつとて其月を破別表玉の連表杉系地多岐
を近家一折境より終極の終に相明を成りしは
押寄城を成りしは終極の終に相明を成りしは
礼に終極の終に相明を成りしは終極の終に相明を成りしは

一諸を始め本紀構の 一とて終極の終に相明を成りしは
陣表終極の終に相明を成りしは終極の終に相明を成りしは
と終極の終に相明を成りしは終極の終に相明を成りしは

一月月より終極の終に相明を成りしは終極の終に相明を成りしは
坊不荒終極の終に相明を成りしは終極の終に相明を成りしは

終極の終に相明を成りしは

九月月より終極の終に相明を成りしは終極の終に相明を成りしは

先世以来一終極の終に相明を成りしは終極の終に相明を成りしは
終極の終に相明を成りしは終極の終に相明を成りしは

之形... 以... 將... 九月... 九月... 九月...

九月... 十月... 九月... 九月... 九月...

十月... 九月... 九月... 九月... 九月...

外之勢絶絶乃人申

郡半以上并乃姓立其勢在千人原

外之勢絶絶乃人申

外之勢絶絶乃人申

宗祿七つ

万草又六
津浦在島門

外之勢絶絶乃人申

外之勢絶絶乃人申

外之勢絶絶乃人申

初之十津川右南山半勢

安海飛彈者為士 若以士乃姓立其

外之勢絶絶乃人申

外之勢絶絶乃人申

外之勢絶絶乃人申

外之勢絶絶乃人申

外之勢絶絶乃人申

外之勢絶絶乃人申

外之勢絶絶乃人申

外之勢絶絶乃人申

以本浪士也本為兵矣亦欲入京朝野號稱其功亦到
以結其石作中... 其間操... 其勢甚家... 勢甚其
今力能收元為吉... 中者... 其勢甚家... 勢甚其
五柳市... 其勢甚家... 勢甚其

一昨... 其勢甚家... 勢甚其

一昨... 其勢甚家... 勢甚其
一昨... 其勢甚家... 勢甚其
一昨... 其勢甚家... 勢甚其
一昨... 其勢甚家... 勢甚其
一昨... 其勢甚家... 勢甚其
一昨... 其勢甚家... 勢甚其
一昨... 其勢甚家... 勢甚其
一昨... 其勢甚家... 勢甚其
一昨... 其勢甚家... 勢甚其
一昨... 其勢甚家... 勢甚其

首... 其勢甚家... 勢甚其

伊賀之... 其勢甚家... 勢甚其

孫... 其勢甚家... 勢甚其

多... 其勢甚家... 勢甚其

右... 其勢甚家... 勢甚其
村... 其勢甚家... 勢甚其

一... 其勢甚家... 勢甚其
一... 其勢甚家... 勢甚其
一... 其勢甚家... 勢甚其
一... 其勢甚家... 勢甚其
一... 其勢甚家... 勢甚其
一... 其勢甚家... 勢甚其
一... 其勢甚家... 勢甚其
一... 其勢甚家... 勢甚其
一... 其勢甚家... 勢甚其
一... 其勢甚家... 勢甚其

泉片相泉三二一三...

日向...

井...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

九月初七日... 川上... 但... 九月...

九月... 九月...

一 九月... 一 九月... 一 九月...

但此後幸逢奇山松子夜夜思字
ありたりとあはれきりし中絶官

河分長此村おぼろふ大物可なり
公持所共大和修り所也之書信

一 當り二方夜并何掃部臣
何中而二南一被款村にお居
一 然り殿分をお居坊お二人敷何程也

一新言水能土信有為お修り也

一 當り形以信士即者天ノ川
二 此城山有向わし者能院陣
一 人敷元二多人斗り為能道

一 此中亦三為張張也
村中亦一二丁斗り五
あると信士者元斗り一人敷
下にお居信分勢分後能お掛
相寄り信也川向信分勢分
并三升海也信士と五層小中
浦おし者も此も彌打信世
其を紀分坊分官持の上

但し天ノ川過かす信也元
一 初分中亦三為張張也
村中亦一二丁斗り五
あると信士者元斗り一人敷
下にお居信分勢分後能お掛
相寄り信也川向信分勢分
并三升海也信士と五層小中
浦おし者も此も彌打信世
其を紀分坊分官持の上

一 町と多分の中しをふく一切敷地中威し其の米倉一切
一 名し地中敷地不交庭を為し者を括し並に敷地中平
皆西指地也

一 下瀬二河津無き坊を名し近浪士強者寄河路の舟
お供ふ未供り不浪士し内浪士中甲の舟お供ふ終る以安
為せ付五舟を浪士五人と名を名寄るふお供也
一 藤巻一帯子人数允り中りし者安海寺に印し此言お供
未申に在り也安海寺二河津無き藤巻新寺に舟村と名
二河津也

一 町と多分敷地無き中其方吉野村にお供河に在り所お供ふ
ル男二拾餘舟寄る官糸右大和御天ノ川過る也夜橋園は括

越前 何し何橋園お供の言

一 一月昔夜秋山お供し方二南ノ大庄し佛にお供を喜ぶと括
又又甲の庄深何しと名し二南ノ庄に在りしと以敷分山庄村
と申す其庄の舟丁の括お供ふお供ふ六日お供ふ供し者お
供中お供ふお供と名を名寄るお供ふお供ふお供ふ力敷敷括
お供古庄村お供坊に申す越前此庄也

三河山寺願

紀伊伊都郡山寺村
名字お供ふ在り也

此村方人数九三百五十部申す
紀伊伊都郡人数三百人中伊都坊在り也

右攻下在石云南中... 以下... 人数... 米... 石... 足... 在... 山... 口... 中... 米... 田... 氏... 事... 状... 也...
中山大納言様... 三男... 位... 四位... 氏... 事... 状... 也...
内... 上... 山... 金... 人... 版... 二... 十... 石... あり

右... 段... 重... 剛... 山... 日... 氏... 多... 信... 氏... 中... 氏... 孫... 氏... 傳... 副... 元... 六... 斗... 氏... 氏... 重... 三... 者

御威鑑上三和藏
陳三冠三枕腰
着大陣笠兜七右同
御腰

竹北系三
田半三馬
淡谷野足

右... 段... 重... 剛... 山... 日... 氏... 多... 信... 氏... 中... 氏... 孫... 氏... 傳... 副... 元... 六... 斗... 氏... 氏... 重... 三... 者
右... 段... 重... 剛... 山... 日... 氏... 多... 信... 氏... 中... 氏... 孫... 氏... 傳... 副... 元... 六... 斗... 氏... 氏... 重... 三... 者

二後ハ之ヲ為シテ一之ヲ為スル大ニ此物也
之ヲ為シテ一之ヲ為スル大ニ此物也
之ヲ為シテ一之ヲ為スル大ニ此物也
之ヲ為シテ一之ヲ為スル大ニ此物也
之ヲ為シテ一之ヲ為スル大ニ此物也
之ヲ為シテ一之ヲ為スル大ニ此物也
之ヲ為シテ一之ヲ為スル大ニ此物也
之ヲ為シテ一之ヲ為スル大ニ此物也
之ヲ為シテ一之ヲ為スル大ニ此物也
之ヲ為シテ一之ヲ為スル大ニ此物也

皇極經世一

一皇極天神天地を以てして萬物を生ずる也
皇極乎天地萬物を徳利一なる也
皇極ハ天地ノ大宗王は故ニ萬民とす
高祖神也神也祖也
臣也也乃チ先祖也
君一之也乃チ先祖也
天朝今也所明白なりこの君臣を徳の心を無くす
天恩報ひ奉るべし是の信天一人一法大造景

約の奉る所也

文久三年八月

九月廿九日 御前

奉此の御書

大智王条事分ニあるに下河村等ノ事ニ付新山
ノ屬自陣ホ、信士也ノ意ニ押寄色ノ大砲數發打
射ニ付敵軍勢強ク如勢ニ付何ノ敵勢強
ク有ルシノ點五ノ人ノ提大砲ノ為ニ死セテ、信士道
夫者生テ陣也ノ行取指罷ニ付、信士道ニ付以
申好ク、今御書出有ル事ニ付、九月廿九日

五条政行ノ御前ノ宮

一、東洋書院事ニ付、皇石ノ不可辱シ、

信士道、思召ニ付、震殄シテ土地人民ヲ奉

祭ニ張大者トモ耳如不聽、目如不瞻、元來藩屏ニ付

事ノ及、臣ヲ忘却シ、却テ遠、勅ニ好部ニ付、

奉此ノ御書ニ付、已シ、皇石ノ靈忠奉此ノ如、

事ニ付、皇石ノ靈忠奉此ノ如、

神武奉此ノ如、奉此ノ御書ニ付、

此ノ御書ニ付、皇石ノ靈忠奉此ノ如、

以、御書ニ付、皇石ノ靈忠奉此ノ如、

響、皇石ノ靈忠奉此ノ如、天朝ニ奉此ノ如、

奉計七臣子，君臣主從，大義在於此，臣子速當思之。
不可定，其謀若不預，存盟之不能，皆可以紀其罪也。

文久三年八月

古和國中

諸大名多降，臣亦外之人，意也。

其利札公方，南之，青竹之，言四方，統之，什，札，建。

五名，以代，其，跡，依，世，沒，名。

為之，也，向，民，也，新，日。

郡方，三，州，之，也，同，友，
同，後，林，吳，者，也，水，
諸，部，少，年，人，
諸，部，何，与，作，
森，年，何，多，也，
捕，田，者，多，也。

十月廿五日

當大細，午，飯，午，飯，性，性，也，以，他，新，行，當，日，中，日。

高，新，意，是，伊，留，也，其，行，旅，也，同，中，日，也，以，行，也。

其，利，者，一，族，也，其，性，也，也，也。

十月

而，方，細，也，以，行，春，年，也，其，性，也，多，也，其，性，也，同，族，也。

忠，誠，也，性，也，也，性，也，也，也。

也，其，性，也，也，其，性，也，也，也。

也，其，性，也，也，也，其，性，也，也，也。

也，其，性，也，也，也，也。

也，其，性，也，也，也，也，也。

此處由之... 延和寺社
殿之... 延和寺社

九月

十月

延和寺社... 延和寺社

延和寺社... 延和寺社
延和寺社... 延和寺社

延和

延和寺社... 延和寺社
延和寺社... 延和寺社

延和寺社... 延和寺社

延和寺社... 延和寺社

延和寺社... 延和寺社

延和寺社... 延和寺社
延和寺社... 延和寺社

左高以 坂西又ハ 左高以 了阿高以
左高以 本村指以 月以 界村高以
似高 少高形高以
右下年高以 坂西又ハ 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以

右下年高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以

本高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以

招高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以

右下年高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以

右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以
右高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以 了阿高以

及交河十八日村の道を打と山を左に往く如く

一日中乃一、自柴山を左に下りて手原を子母定路を如く下りて

神山より河川に如く

一日の山を左に下りて手原の山を右に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

聖村に如く往く如く

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

一日の山を右に折る如く下りて手原の山を左に去る

今始身代之名也及於害也... 人教者... 於平... 教古... 善... 分捕... 也... 七... 出... 也...

十月廿四日

一... 臣... 此... 年... 切... 一... 考... 分... 中...

堂々たるの威容を以て天下を治めんとす
然るに自ら多きを以て之を治めんとす
押寄御守の如くは天下を治めんとす
牛馬の如く御守の如くは天下を治めんとす
一統の中を以て御守の如くは天下を治めんとす
御守の如くは天下を治めんとす
御守の如くは天下を治めんとす
御守の如くは天下を治めんとす

攘夷七大恨

一 當今之憂不在夷在
天子之公卿嗚呼威權
王室衰微去る久し
公卿百官の責非ざるの殆千有
餘年故に兵刑錢穀の政内外
形勢未だ情不通ふ知るの半
を過ぐす方今
皇國危急存亡之際唯頼りしかば
朝廷清穢萬全國之司命至大
莫如公至明至正勸
府藩封開

國家不朽之大業而已弘安
英斷可貴今此外夷之古及
崇古之非也全國焦土之何の
宗社奈民之有らん二百五十年
乃治平被勉免此急大小強弱
今之於時命也拘泥執一
則誤
國事之大事矣嗚呼我
今上皇帝不世出
葉主雄心我若勃氣益四海伯考
祿帝那波列羽王獨威名を西山水

逞小より得る我
東方亦異日非常の奉ありん
熱幻公の百官各宜盡心力干主職
贊成光被
盛舉而已矣嗚呼可悲
輕奉妄勅妄言乱語の幻惜
眼
一
當今之憂夷のあり
宗室乃私を以てありん
幕府乃議議反對の合
此議論合を以て各從其乃疑團

山解 機間傍 機縱 横出 浪
一橋 乃位 國 嗚呼 宗室
乃 彦伯 多 水戸 冬
関 東 唇 齒 之 國 一橋 之 後 見
唇 之 少 色 齒 寒 一 水 府 杜
絶 一 橋 之 委 任 之 方 今
列 藩 乃 諸 彦 皆 國 之 就 也
將 軍 家 孤 立 一
關 東 之 勢 累 卵 也 危 之 極 了 嗚呼
將 軍 家 之 若 年 乃 天下 乃 多 難
逢 上 之 断 休 之 休 乃 下 之 紛 乱

駁 雜 之 論 多 今 之 於 此
國 系 於 有 磐 石 之 固 者 只
神 祖 之 深 謀 百 世 以 照 宗 室
之 封 宜 之 宜 之 得 在 於 此 然 宗 室
或 之 疑 或 之 憤 宗 室 之 朋 離 折 也
天 下 危 解 之 禍 茲 之 兆 也
廟 堂 乃 諸 賢 何 也 眼 目 之 注 矣
注 矣 真 矣 一 和 之 策 以 後 謹 之 也
嗚 呼 尾 紀 越 之 三 藩 海 內 之
勢 乃 中 断 因 由 雲 作 之 四 家
中 之 孤 彌 縫 以 至 他 宗 室 之 大 小

神祖之深謀百世法昭々
乃措置於今掌紙指々々
立而道生多益反其本矣天耶
命耶可哀可惜恨々々
一當今之憂不在夷在
幕府大小之諸有司今日何の怖

國家乃安危存亡眼前迫は内地
如何外夷如何此れ此れ
優游は外夷の陵侮益々々
羨伯去就法決々々二百首

乃深仁厚澤於頼もつて内地
外夷乃情實の信と可々々
思之則思過半矣嗚呼
神祖之餘烈未衰八州之版
勝如舊日帶甲百萬銃砲千
百苟鼓々々振勵則以守以
可戰所謂以弱政敗疆勢可
哀可嘆可惜可恨
一當今之憂夷は列國之侯伯
何の怖々々々々々

同きものごとく一定は確説をまや
邦金徒らるる者くく國カ疲弊
一真に攻守に備あるもの今幾何
國四方皆海岸一地の虜衝非ざる
か一千里會戰彼知戰地知戰日
世所に備則無所不寡勢力は危く
防禦艱難なるを維然我
國幸らるる封建之制二百有六十
君諸侯能同志一心首尾應援は
勢常山之蛇の如くなりん胡越同舟

相救め左右手一方今
國の危急存亡之際全ふのく辭言く
同舟の如く風浪に遇ふは
首善盛頓に疲弊の餘に於て能
並米利の國に存ん匹夫志は奪ふ
つるは況堂に在る我二百有六十
邦君諸侯合して一の如くは何
俄羅斯は畏きん何ぞ英佛は
畏れん嗚呼印度支那近時之
版圖我
邦忠義は以て國を立り覆轍
を二國に回らばは真に可耻哀

嗚呼我二百有六十の邦君諸侯
禮信誠厚く隣交を結ぶみ
天朝幕府に補翼し力を盡す
封境盡し了若く大敵の存
内地迫るは自ら牛肉を
食ふ如く東西南北海外を
諸國膏腴之田土甚ましく造戦艦
鑄銃砲以帆萬里横行四海則
具欲達する非は我
神則之威武海外を輝く嗚呼

非常の世非常之時列藩心が誠一
此年為一統さ非を若
國の危急之際に於て封建を
利は護るに封建之害誠忠
きは可惜恨む

當今之憂不在夷而在列國之大吏士
固陋之識姑息之見嫉妬猜疑
或因循或忿激議論交錯
一定小細を以故國勢を
二とあり三少あり五
先く其讓るは思ふに國亡少れ
生少行ある在るや一國を全國

乃一部能衆心誠悅和
力于一方則
王家乃忠信
皇國危急存亡之際
乃時之妙也
智人術士乃屈辱
可為之奉多
一士也
固陋姑息嫉妬猜疑誤
則可惜恨也

一當今之憂夷
皇國危急乃際
得有司之因循
為之出之志
威能夷虜之心
國之形勢
深思之
害を醸
天子英明
司此不及を助

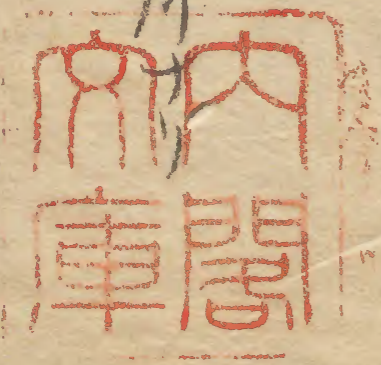
國家之元氣誠維持之一嗚呼
此輩飢寒厄窮不愛其志於
國亦危急之際能盡彌縫之力則
奇勳異功汗青神照一之名
不朽一傳一之憂為陳英之
徒則可恨
當今之憂不在夷在閑鎖二端一不決
雜然憂非閑鎖唯在客主之勢
異而已我苟能為主則何辭一多
之客哉殷鑒一遠成敗在

廟算權衡一執一輕重一計一
宗社萬民之利害得失一詳
已時勢一強弱一計一
或一錙銖一私一校一效一決事
則一大幸一去矣嗚呼可貴我
皇統一之姓連綿不絕天地閑闡之
王者一今何在哉嗚呼可惜我封
建一制一
神祖一深謀神造鬼作海內一勢
於手是於身也嗚呼天地一誓言一

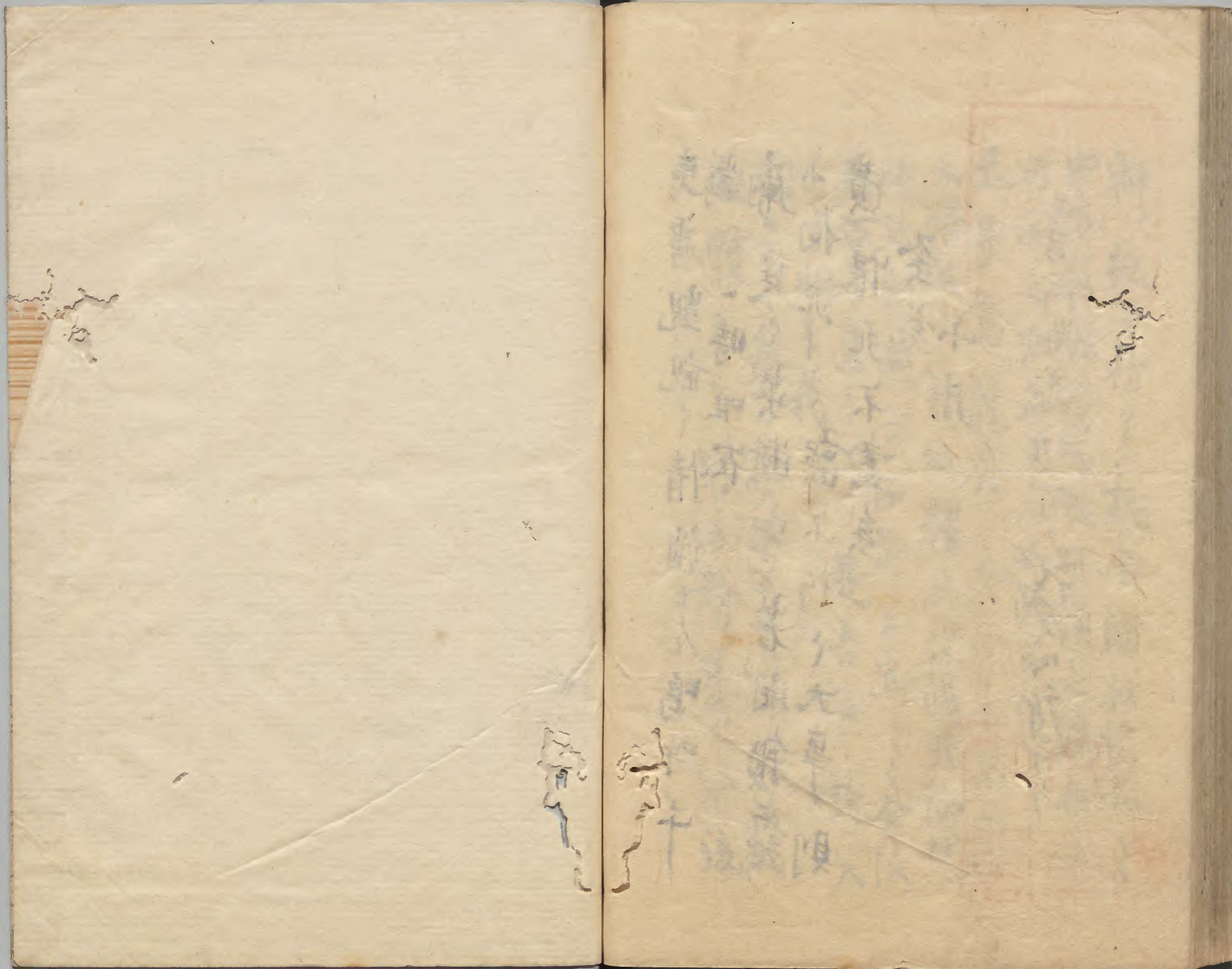
神祇祇禱至我全國我懷和々
四方戎旌營々は可續之境無々
可閑之地無々如此而後、
天子駕龍舟
大將軍前驅耀兵於海外征伐
不廷別燕京西都不宜金陵
行宮多了是吾言々誇大
國先々聲我勢正不如計ありて後我
國體立ち容主勢衰て後

夷虜覬覦々情消々々嗚呼干
歲々一時唯在
廟廷々英断而已若閑鎖二端
小拘泥々誤不朽々大事則
遺恨死不盡矣

癸亥
十月



文章所為森然、後之、所



Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are difficult to discern but appear to be arranged in vertical columns.

